

令和7年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演事業）  
 出演希望調書 No.1（共通）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風
公演団体名	東京演劇集団 風

分野・種目

※応募する企画の主たる分野・種目を1つ選択してください。

分野・種目については、募集要領4ページを御参照ください。

分野	種目
演劇	児童劇・ <b>演劇</b> ・ミュージカル

取り組み（該当する取り組みに○を付してください。）

該当	取り組み
<input checked="" type="checkbox"/>	①障がいのある芸術家が活躍する取り組み
<input type="checkbox"/>	②字幕や音声ガイダンス等を設置するだけでなく、障がいのある子供たちも主体的に芸術鑑賞・体験ができるよう工夫された取り組み

応募する取り組みが①である場合、芸術家が抱える障がいの種類

--

※採択を受けた場合、実施へ向けた調整に当たり、参考とさせていただきます。

応募する区分（該当する区分に○を付してください。）

該当	区分
<input type="checkbox"/>	《D区分》 公演を中心とする企画
<input checked="" type="checkbox"/>	《E区分》 ワークショップを中心とする企画 ※ ワークショップの一環として実演を披露するものを含みます。

実施可能期間 ※原則として令和7年6月2日（月）～令和8年1月30日（金）まで

実施可能期間	<input type="checkbox"/>	全期間：令和7年6月2日 ～ 令和8年1月30日 ※夏休み、年末年始を除く
	<input type="checkbox"/>	～
	<input type="checkbox"/>	～
	<input type="checkbox"/>	～
連日公演の可否	<input type="checkbox"/> 可	←選択してください。

**実施可能地域** ※実施可能な地域名の前に○を付してください。(複数選択可)

該当	地域	都道府県	都道府県を限定される場合はこちらに御入力ください。
○	限定なし		
	北海道	北海道	
	東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川	
	北関東・甲信	茨城、栃木、群馬、山梨、長野	
	北陸	新潟、富山、石川、福井	
	東海	岐阜、静岡、愛知、三重	
	近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
	中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
	四国	徳島、香川、愛媛、高知	
	九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
	沖縄	沖縄	

## 団体の概要

### 【制作団体について】

ふりがな	かぶしきがいしゃ とうきょうえんげきしゅうだんかぜ		
制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風		
代表者職/氏名	代表取締役 浅野佳成		
制作団体所在地	〒 164-0003		
	東京都中野区東中野1-2-4		
制作団体代表電話番号	03-3363-3261		
制作団体設立年月	1987	年	10 月
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役/浅野佳成	専属契約劇団員 35名	
	取締役/柳瀬太一	(俳優28名/スタッフ7名)	
	緒方一則、西垣耕造 監査/柴崎美納	実習・養成機関を経て、3年間の研究生期間ののち、専属契約を結び、劇団員となる	
事務体制：事務（制作専任担当の有無）	専任		
Webサイト等URL	<a href="https://www.kaze-net.org/">https://www.kaze-net.org/</a>		
本事業担当者名	江原早哉香	本件連絡先：電話番号	03-3363-3261
メールアドレス	<a href="mailto:sayaka@kaze-net.org">sayaka@kaze-net.org</a>		
経理処理等の監査担当の有無	有		
経理責任者名	辻幸男		

【公演団体について】

ふりがな	とうきょうえんげきしゅうだんかぜ
公演団体名	東京演劇集団 風
代表者職／氏名	芸術監督 浅野佳成 / 代表 柳瀬太一
Webサイト等URL	<a href="https://www.kaze-net.org/">https://www.kaze-net.org/</a>

特別支援学校等における活動実績や障がいを持った芸術家の活動を拡げる公演等の活動実績

障がいのあるなし、年齢・経験に関わらず、みんなが一緒に楽しめるバリアフリー演劇を全国で上演しています。

〔特別支援学校等でのバリアフリー演劇上演実績〕 全116校 (令和元年度～令和6年度)

特別支援学校 81校、盲学校 13校、聾学校 22校

(知的・肢体・病弱含む)

青森県	盲学校、青森聾学校 八戸盲学校・八戸聾学校
岩手県	盛岡聴覚支援学校、盛岡視覚支援学校
秋田県	聴覚支援学校、視覚支援学校 きらり支援学校、ゆり支援学校
宮城県	視覚支援学校、聴覚支援学校
山形県	山形盲学校
福島県	視覚支援学校、聴覚支援学校、福島大学附属特別支援学校、大笹生支援学校、須賀川支援学校、たむら支援学校、だて支援学校 郡山支援学校、石川支援学校
群馬県	聾学校、あさひ特別支援学校、赤城特別支援学校、しろがね特別支援学校、太田特別支援学校、沼田特別支援学校、館林特別支援学校、渋川特別支援学校、渡良瀬特別支援学校、吾妻特別支援学校、富岡特別支援学校、藤岡特別支援学校、前橋高等特別支援学校、高崎高等特別支援学校、二葉特別支援学校、太田高等特別支援学校、館林高等特別支援学校、伊勢崎高等特別支援学校
埼玉県	秩父特別支援学校、東松山特別支援学校 川島ひばりヶ丘特別支援学校 県立特別支援学校鳩保己一学園
千葉県	袖ヶ浦特別支援学校、市川特別支援学校 長生特別支援学校
東京都	城南特別支援学校、青峰学園、青鳥特別支援学校、水元小合学園、中野特別支援学校
神奈川県	川崎市立聾学校
山梨県	盲学校
石川県	小松特別支援学校、明和特別支援学校 いしかわ特別支援学校、ろう学校
福井県	嶺南西特別支援学校
静岡県	吉田特別支援学校
愛知県	豊橋聾学校
岐阜県	聾学校
三重県	特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校、特別支援学校くろしお学園

滋賀県	聾話学校
京都府	城陽支援学校
兵庫県	神戸聴覚特別支援学校、赤穂特別支援学校 姫路聴覚特別支援学校、姫路特別支援学校 高等特別支援学校 出石特別支援学校みかた分校
奈良県	ろう学校・盲学校
島根県	隠岐養護学校
岡山県	倉敷まきび支援学校 倉敷市立倉敷支援学校
広島県	沼隈特別支援学校
山口県	防府総合支援学校
徳島県	板野支援学校、ひのみね支援学校 鴨島支援学校
香川県	香川西部養護学校
愛媛県	宇和特別支援学校
高知県	高知ろう学校、盲学校、中村特別支援学校 日高特別支援学校 日高特別支援学校高知みかづき分校
福岡県	高等聴覚支援学校 久留米聴覚支援学校
佐賀県	盲学校、ろう学校、唐津特別支援学校 大和特別支援学校、金立特別支援学校 佐賀大学教育学部附属特別支援学校 伊万里特別支援学校、うれしの特別支援学校
長崎県	ろう学校、佐世保特別支援学校、佐世保特別支援学校上五島分教室、諫早特別支援学校
熊本県	盲学校・ろう学校・はばたき高等支援学校 ひのくに高等支援学校、熊本大学教育学部附属特別支援学校、小国特別支援学校
大分県	聾学校、新生特別支援学校
宮崎県	小林こすもす支援学校、延岡しろやま支援学校、赤江まつばら支援学校
鹿児島県	牧之原特別支援学校、大島特別支援学校

これまで全国の小・中・高等学校152校でもインクルーシブ教育の一環として上演。また地域の教育委員会・文化施設・社会福祉法人などと連携した公演も、全国80か所で行っています。

※バリアフリー演劇を体験した先生たちや、子供たちからいただいた声をご紹介します



舞台を触ることができる。上がることができる。声を出しても、席を離れても、規制されない。そんな経験は初めてだったと思う。逃げ出さなくてもいいんだ。いつもなら数分で立ち上がる子が約2時間も座って舞台を楽しんでいる。想像以上のすごい状態である。ひとりひとりの人生のなかで、このような演劇鑑賞にまた出会ってほしいと思う（岡山県 特別支援学校 教員）

盲・ろう生徒の全員が純粋に演劇を楽しむ喜びを共有しました。みんなが参加したクライマックスは熱い興奮に包まれ感動的でした。舞台芸術を観る権利は誰にでもあって当たり前のこと。そんな思いを改めて感じました（奈良県 ろう学校 教員）



肢体不自由の児童生徒の身体はとても繊細です。バリアフリー演劇では思い思いの姿勢で、体育館で安心して参加できます。「生きていること」「命」の大切さに出会える、本当に素晴らしいことです（東京都 特別支援学校 教員）

「バリアフリー」に対応するのは、視覚・聴覚・肢体の不自由さに対するものばかりだと思っていましたが、想像の斜め上をいくバリアフリーな演出とアイデア、柔軟な対応に圧倒され、目から鱗が落ちました（神奈川県 小学校 教員）



子供たちの主体性は本物に触れるなかで一層発揮されることを、私たちは実感しました（群馬県 特別支援学校 教員）

ステージの本物をみたり、さわったりしたのがはじめてでした。うれしい気持ちでした。またいつか来てください（特別支援学校 高等部 生徒）



一番楽しかったのは、みんなが立って参加するところと、手話歌を歌ったところです（盲学校 小学部 児童）

いつか舞台、演劇をやりたいという夢ができました。障がいのある人もない人も一緒に楽しめるバリアフリー演劇はすばらしいと思いました（ろう学校 高等部 生徒）

令和7年度 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演事業）

出演希望調書 No.2（D区分）

オレンジ色

入力必須項目です。

みどり色

選択必須項目です。

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風					
企画名	みんなで楽しむ バリアフリー演劇					
主な対象学年 ※複数選択は可能ですが企画内容と趣旨が異なるようお願いいたします。	<input type="radio"/>	小学校：低学年	<input type="radio"/>	小学校：中学年	<input type="radio"/>	小学校：高学年
	<input type="radio"/>	中学校・中等教育学校（前期課程）				
	<input type="radio"/>	特別支援：小学部	<input type="radio"/>	特別支援：中学部	<input type="radio"/>	特別支援：高等部
児童・生徒の鑑賞・体験可能人数の目安	1回の人数		回数			
ワークショップ	※3回まで		500人		2	
本公演	※1校1回まで		500人		まで対応可	
企画の動画等の資料	PW		なし			
URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=bGPNPh9VJPI">https://www.youtube.com/watch?v=bGPNPh9VJPI</a>					

本公演について

主な演目	バリアフリー演劇「星の王子さま」		ほか
原作／作曲	作 サン＝テグジュペリ 訳 内藤濯 / 作曲 八幡茂		
脚本	構成 浅野佳成		
演出／振付等	演出 浅野佳成		
公演時間 (分)	著作権	<input type="radio"/>	制作団体が所有
		<input checked="" type="radio"/>	制作団体以外が所有する事項が含まれる
100分		(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾の有無	

演目概要

心と身体を解き放って、ひとりひとりが主人公になる！  
みんなが一緒に楽しむ、バリアフリー演劇を上演します

劇場へ、ようこそ

友だちや先生と安心して、のびのびと演劇を味わえる劇場をつくります。舞台上上がって隅々まで探検したり、俳優たちとも仲良くなって、自由に過ごせるみんなの空間です。

誰もがアクセスできる演劇

役者として登場する〈手話通訳〉と〈音声ガイドナレーター〉、舞台の真ん中に映し出される〈字幕〉が、演劇と一体になって、子供たちを優しく物語世界へといざないます。

さあ、みんなの出番だ！

子供たちが演劇をつくる表現者・共演者になります。

世界でたったひとつの舞台を、学校の全員でつくりましょう。

※詳細は別添資料①をご参照ください



学校の教育課題や要望に寄り添い、子供たちの学びに活かせるバリアフリー演目です。舞台手話通訳と字幕が俳優のせりふや劇中の音を、音声ガイドが登場人物の動きや場面の变化を伝えます。

**バリアフリー演劇「星の王子さま」**

ちっぽけな星に一輪の花と暮らす王子さま。  
ある日、花とケンカして星を巡る旅に出ます。  
地球で飛行士やキツネと友だちになった王子さまは「かけがえのないもの」を学び、花のために星へ帰る決心をします。生命の美しさ、力強さを描くファンタジー。  
王子さまが旅立つクライマックスシーンで、子供たちが歌・セリフで参加します。  
先生方の特別出演場面も用意しました。



**バリアフリー演劇「ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち」**

作 松兼功 演出 浅野佳成 音楽 小室等  
見えない・聞こえない少女ヘレンが  
家庭教師アニーと出会い、感情をぶつけ合い  
すれ違いながらも心を通わせていく物語。  
「あなたに覚えてほしいのは“みんなと話せる言葉”  
そして、生きてる幸せ」  
ヘレンが「TEACHER」と呼びかけるラストシーンで  
アルファベットの指文字や子守歌に参加して  
思いが通じる喜びを分かち合います。



子供たちに新しい世界を開いて、人と人とが優しくつながる演目を選びました。  
目に見えない様々なバリアを取りのぞき、すべての人が通じ合う  
それが、「みんなで楽しむバリアフリー演劇」です!!

演目概要

公演従事予定者の編成  
(1公演あたり)

計22名(出演者9名、舞台手話役者1名、音声ガイド1名、スタッフ11名)

公演に当たり  
必要な会場条件

- ・舞台の設置場所  教室  **体育館**
- ・舞台に必要な広さ 横幅12m×奥行9m程度 (フロアに舞台を設置します)
- ・電源容量(主幹ブレーカー容量) 150 A
- ・暗転の要否  要  **不要**
- ・その他  
会場条件にかかわらず、すべての体育館での舞台設営が可能です。  
電源容量が足りない場合は、劇団で発電機を持ち込みます

会場設営の所要時間  
(タイムスケジュール)の目安

前日仕込み	有	会場設営の所要時間		2	時間程度		
到着	仕込み(開始・終了)	本公演(開始・終了)		内休憩	撤去(開始・終了)		退出
8:00	8:00 12:00	13:00 15:00	10分	15:00 17:00	17:30		

上記のタイムスケジュールはあくまでも目安です。各校の時間割や活動を伺いながら、思い出の一日となるようなスケジュールを先生方と計画していきます。

派遣について

移動方法の制約等	特にありません
運搬規模	トラック2台

## ワークショップについて

### 内容

#### ① 演劇と出会おう！共演ワークショップ

(45分～90分程度／公演2ヵ月前～公演当日に体育館にて実施)

みんなで一緒につくるクライマックスシーンの事前練習です。

子供たちは物語を想像して、俳優とふれあいながら、湧き上がる想い、気持ちを自由に表現してみます。

言葉や歌、指文字・手話、身体も使って、学校のみんなでひとつの場面をつくりあげます。

友だち・先生たち・出演者とのワクワクの演劇体験のはじまりです。



#### ② ユニバーサル・ディスカッション～僕らはいつも旅の途中！

(45分程度／公演当日に体育館や教室で実施)

バリアフリー演劇の監修者や出演者・スタッフとの学びの場です。

演劇をきっかけに子供たちのなかに芽生えてきた「手話って面白そう」「指文字を覚えたい」「障がいのある人のために自分ができることは何だろう」「バリアフリーって身の回りにもあるかな」など発見や興味、疑問を率直に話し合います。手話表現や音声ガイドなど、気持ちを伝えるいろんな方法も体験します。



① 出演者4名、指導者1名の計5名が実施します(手話通訳が同行する場合があります)

② 出演者2名、監修者(指導者)1名、計3名が実施します(支援者・通訳が同行する場合があります)

### 目的とする効果

#### ① 表現はひとりひとり、きみはきみのままでいい

俳優と呼吸や身体を合わせる緊張感、友だちや先生と一緒にできる楽しさ、やってみたくて思いのままに演じられる心地よさを味わってほしい。手をたたく、声をあげる、ジャンプする、体を揺らす、ジッと見つめるなど、それぞれの表現が重なりあって、みんなでひとつのものを創っていく喜びを共有します。

自分は何にでもなれる、何でもできるんだ！という自信や可能性を感じて、自分自身や演劇を好きになるワークショップです。

#### ② お互いのよさを認め合える、わたしたちのインクルーシブな未来へ

演劇を見て共有した「楽しい」をきっかけに、いろんな表現や生き方などにふれて、多様性に満ち溢れた豊かな世界への扉を開く対話の時間です。

違いを持った人たちが共に学び合い、誰もが共に生きるインクルーシブな未来を想像しながら、思いやりや共感の心を育てて欲しいと考えています。

企画のねらい

「すべての子供たちは芸術の発信者であり、社会に文化の風を吹かせる存在である」  
これまでの公演活動でそんな子供たちの感覚に驚かされ、いつも新しい感動、新しい発見をしてきました。

しかし一方で、「大きい声を出して周りに迷惑をかけてしまうかも…」「じっとすることが難しい」「文化施設に行くまでがひと苦労」「情報保障がついていなくて寂しい思いをした」「多くの人がいるところが苦手」「友達や家族といっしょに楽しめない」などの理由から、舞台芸術の鑑賞から遠ざかってきたと、先生方・障がいのある方々からお聞きしてきたことも事実です。  
そんな声に応え、障がいのある人もない人もいっしょに楽しめる本格的な演劇を届けたいと、本事業に申請します。

地理的・物理的なバリア、目に見えないたくさんの壁・枠組みもひとつひとつ取り払って、すべての子供たちが感動を共有し主人公になる、特別なバリアフリー演劇を上演します。  
子供たちの気持ちに直に触れておられる先生方のご意見をお伺いしながら、ひとりひとりの子供たちが安心して観て参加できる環境、一校一校の公演をつくりだします。  
彼らが自分から考え、動きはじめて、人と大いに関わって、みんなの力を合わせてひとつのことに取り組んでいくプロセスを大切に実施します。

すべての子供たちが自由に芸術を呼吸して、それぞれの感性や可能性を発揮してほしい。  
劇場に集うみんながひびき合い、時間と空間と希望を共にしてほしい。  
そして、みんなの多彩な色と形でつくりだした演劇空間の心地よさを、共に生きる未来への原動力とつなげてほしい。  
それが私たちのバリアフリー演劇が目指しているものです。



### とびっきりの笑顔を見るための先生との協働

事前の打合せでは、子供たちの日頃の様子、障がいの特性、公演を通じて経験させたいことなどを、先生方に詳しく伺います。子供たちひとりひとりが活躍して、自分の力を存分に発揮できる、そして先生も楽しめる公演のプログラムを、話し合っていきます。



衣装を着て記念撮影

### みんなが舞台を好きになる、バックステージツアー

いつもと違う雰囲気、大きな音、暗い所は苦手という子供たちも、俳優やスタッフとふれ合いながら時間をかけて気持ちをほぐしてもらいます。車いすやストレッチャーの子が、いつでも舞台にあがれるスロープもつくります。

心ゆくまで道具にさわる、衣装を着て役者になりきる、ライトを点ける、音を出す、劇場をまるごと体感することで、人や物、場所に親しみを持ち、演劇をより近くに感じてもらいます。



舞台と客席をスロープがつなぐ

### 障害の有無に関わらず、誰もが楽しめる演劇

舞台手話・字幕・音声ガイドは作品に溶け込むように演出されます。

また、舞台の広さや形、出演者や手話のサインネームを紹介する舞台説明も行います。

舞台と客席の間や障がい種別の垣根を取りはらい、一体感を生み出す演劇空間です。

### 安心して参加・体験できる、ひとりひとりに配慮した公演づくりを行います

〈事前準備〉 登下校・授業・給食時間等を考慮したスケジュール作成  
共演場面の手話歌を、映像で配信  
点字・墨字のパンフレット、上演台本を配布  
出演者による、音声メッセージをプレゼント

〈会場づくり〉 客席・会場内の明るさを保ち、音の大きさや響きを調整  
いつでも出入りできる入場口の開放

暑さや寒さを和らげるための冷暖房器具の設置  
自由な姿勢で観劇できる、吸引も行える客席スペースの確保  
機材ケーブルの配線の工夫と保護カバーの設置

〈公演中〉 複数のスタッフが舞台裏各所、客席、入場口にて介助・見守り  
訪問学級の児童生徒に向けたオンライン上演  
ロジャー（デジタル補聴援助システム）等の調整  
子供たちの状況や心の様子に応じた演出内容の変更



バックステージツアーで  
道具の形をさわって確かめる

### 公演を核に、子供たちの学びを広げ、思い出を深めるプログラム

下記は、先生方からのご提案を受けて、これまで実施してきた一例です。

- ・ 児童生徒会、委員会、有志による本番の司会進行
- ・ 好きな楽器を鳴らして参加する共演場面
- ・ 出演者やスタッフとの給食交流
- ・ 舞台上で出演者との記念撮影会
- ・ 舞台の仕事を経験する、撤去作業のお手伝い
- ・ 役者・スタッフへのインタビュー・座談会
- ・ 音楽で練習している歌や演奏、国語の朗読を舞台上で披露
- ・ 図工・美術で演目を題材とした作品づくり
- ・ 地域の人たちや保護者に呼びかけるための、手づくりポスターやチラシ、チケット
- ・ オリジナルの演奏曲や寸劇を制作し、舞台上で発表



オリジナルポスターを作成

## 取り組み②で応募する場合、特に重点的に取り組んできた課題（障がいの種類等）

### 全国の小・中・高等学校、特別支援学校での巡回公演活動に力を注いできました

創立以来、青少年を対象に年間200ステージの上演を行い、障がいの有無、地理・家庭・経済的環境、教育制度の枠に関わらず、子供たちが主体的に舞台芸術に触れられる機会をつくってきました。若い観客は、やわらかい心と本物を見極める鋭い感性で舞台と向き合います。そのたびに私たちは、今を生きる彼らの姿から作品をとらえ直し、演出を再構成して、レパートリーを磨き上げてきました。さらに、心に傷を抱えている子供たちも演劇を通じて人を信じ、生きる希望を感じられるように、ひとりひとりの観客に寄り添う俳優やスタッフの育成に取り組んできました。同時に、全国のどんな会場でも本格的な劇場が作りだせるよう、舞台機構設備や運搬車両も整え、常に質を問い直しながら改善を図っています。

### 障がいのある方、その支援者、多様な分野の専門家が集まって、バリアフリー演劇を制作しました

2018年、バリアフリー演劇研究会を発足。以降、立場や役割で括ることなく闊達な意見を交わしてきました。文化芸術・福祉・教育の異なる分野が横につながり、みんなが幸せを感じられるほんとうの〈インクルーシブな共生社会〉を目指しています。また、障がいのあるアーティストとコラボレーションを企画・実施。制作活動や情報保障のノウハウの交換や共有、蓄積や活用を行いました。そのことが互いの作品の質を高め合い、バリアフリー演劇はより深化しています。

## 協力・連携機関及び団体内における専門員の配置等

下記の監修者、アドバイザー、団体と連携して、子供たちが誰ひとりとして寂しい思いをすることがないように、〈演劇との出会い〉をつくり出します。

- ・尾上浩二(バリアフリー演劇総合監修／肢体不自由障がい・車椅子ユーザー)
- ・大河内直之(音声ガイド監修／視覚障がい)
- ・中曽根鈴音(字幕監修／聴覚障がい)
- ・緒方れん(手話監修／聴覚障がい)
- ・小島祐美(舞台手話通訳者)
- ・岡部浩之(アドバイザー／知的障がい支援者)
- ・岩上洋一(アドバイザー／精神障がい支援者)
  
- ・特定非営利活動法人 日本DPI会議(Disabled Peoples' International)
- ・特定非営利活動法人 全国地域生活支援ネットワーク
- ・一般社団法人 全国地域で暮らそうネットワーク
- ・一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会

## 【令和7年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業－ユニバーサル公演－実施条件等確認書（No.1）】

ID*	UNI7_08	企画名	みんなで楽しむ バリアフリー演劇		
制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風		公演団体名	東京演劇集団 風	

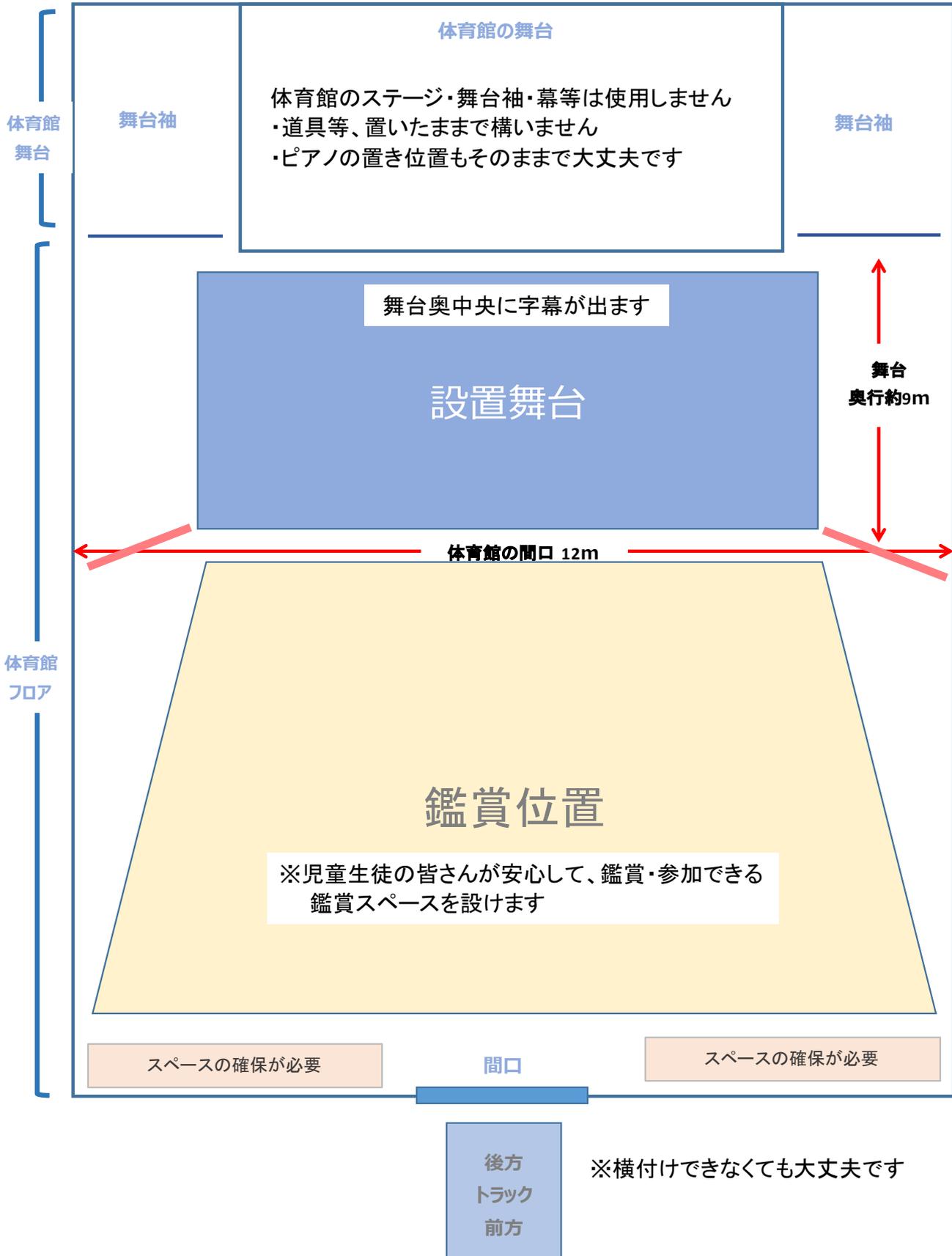
## ① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等					応相談	
控室について	必要数*	1室	条件	条件は特にありません。教室がない場合は体育館ス テージ等でも可能です		可	
前日仕込みについて*		あり	補足	先生方とご相談しながら設営計画を作成します。午後 開演であれば当日の朝からの設営でも対応します		可	
搬入について	来校する車両の大きさと台数*		10t	1台	中型バス	1台	可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細		体育館への横付け、学校内での留置などが困難な場 合でも、舞台設営は可能です				/
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ		大型トラック(車幅2.5m/車長12m)				可
	搬入車両の横づけの要否*		不要				可
	横づけができない場合の搬入可能距離*		問わない				可
	搬入経路の最低条件		事前の打合せ・下見をさせていただきます。先生方とご 相談しながら、安全に搬入・搬出できる経路・時間帯 を決定します				可
	理由		学校の送迎用車両等の運行などと鉢合わせにならな いよう、詳しく学校のスケジュールや周辺の道路状況な どをお聞きます。専門スタッフが対応しますので、先生 方の計測などは不要です				/
	設置階の制限*		問わない				可
搬入間口について 単位：メートル	幅	問わないm		高さ	問わないm		可
舞台設置場所*		フロア					可
舞台設置に必要な広さ 単位：メートル	幅	12m	奥行	9m	高さ	5m	可
体育館の舞台を使用す る場合の条件	舞台袖スペースの確保*		不要				可
	舞台袖スペースの条件*		なし				可
	緞帳*	不要		バトン*	不要		可
遮光(暗幕等)の要否*		不要	理由	劇団で遮光幕を持ち込みます			可
ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は 経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動*	不要		※指定位置は会場設置図面 にて御確認ください。			
	ピアノの事前調律*	不要					可
フロアを使用する場合の 条件	バスケットゴールの設置状況*		格納されていれば可				可
公演に必要な電源容量		150	※主幹電源の必要容量			可	
その他特記事項						応相談	
電源容量が足りない場合は、劇団で発電機を準備します						可	

## ②会場図面(表記単位：メートル)

搬入間口について	幅	問わない	高さ	問わない
搬入車両の横づけの要否		不要		
横づけができない場合の搬入可能距離		問わない		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



# みんなで楽しめる バリアフリーな演劇づくり

バリアフリー演劇には、視覚・聴覚の情報を伝える舞台手話や字幕、音声ガイドが演出に組み込まれています。

さらに舞台の広さや構造、出演者やサインネーム（役名を表す手話）を紹介する舞台説明もあります。

誰もが同じ時間と空間で、一緒に見て、感じて、胸が踊る！演劇です。



開演前に行われる「舞台説明」では、視覚障害のある人も舞台をイメージできるよう、衣装や道具の色や形、大きさ、位置などを伝えます。

人物の動きや場面の变化を語る「音声ガイド」が、会場全体に流れます。その場で起こることをライブで伝えながら、子供たちをやさしく物語へと誘います。



舞台の背景には、舞台美術と融合した「字幕」が映し出されます。登場人物のセリフや音楽を場面に合わせて表出します。

「舞台手話」は俳優と一緒に舞台上を動き回り、すべての登場人物のセリフや音楽を手話で表現します。時には舞台手話通訳者が主役になって舞台を盛り上げます。



# 誰もが主役、学校の みんなが共演者になる！

子供たち、先生と一緒に演劇をつくり上げる参加場面を用意しました。

児童生徒が劇中で歌うソング、先生方の共演などが作品に散りばめられています。

自分や友だち、そして先生も、

いろんな人の表現がまざり合う創造の面白さを感じながら、

学校でのかけがえない思い出を創り出す共演場面です。



別添資料 演目概要

『星の王子さま』では、1幕ラストシーンのソング「ぼくの旅は続く」や物語のクライマックスで児童生徒さんたちが手話や歌、セリフで共演。子供たちが王子さまの旅を支え励まします。先生方の共演場面も用意しました。



『ヘレン・ケラー』では、アニーがヘレンのために歌う子守歌の手話歌や、クライマックスの指文字「TEACHER！」で児童生徒さんたちが共演。アニーとヘレンの心が通い合う喜びを一緒に表現します。

